

いつもお世話になっております。

今月分の請求書を送付いたしますので、何卒ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

この度の九州北部の豪雨被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、復旧作業に従事されている皆様のご安全と、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

京都の夏の風物詩、祇園祭を見に行きました。祇園祭は7月の一か月間に様々な行事が行われます。中でも有名なのは「山鉾巡行」で、豪華絢爛な33の山鉾が通りを巡行します。今年は3連休の最終日にあたって、連休初日の宵々山はすでに大混雑。ただでさえ京都は蒸し暑いのに、屋台の熱気と人いざでむんむんとしていました。

碁盤の目のように東西南北に走る通りのあちこちに山鉾がたち、鉾の上からお囃子が流れてきます。各会所では、^{ちまき}粽や趣向をこらしたデザインの手ぬぐい等を販売しています。粽といっても食べ物ではなく、玄関先に飾る厄除けのお守りで、「蘇民将来子孫也」の護符がついています。山鉾によってご利益が異なり、一番人気の長刀鉾の粽は午前中には売り切れてしまうそうです。

祇園祭の由来は平安時代にさかのぼります。863年、疫病の流行により朝廷は御霊会を行いました。御霊会とは、疾病の原因と考えられていた「怨霊の祟り」を鎮めるための祭りです。しかし、疫病の流行はつづき、864年に富士山の大噴火、869年に貞観地震と地殻変動がつづき、社会不安が深刻化する中、全国の国の数を表す66本の矛を立て、その矛に諸国の悪霊を移し宿らせることで諸国の穢れを祓い、神輿3基を送り薬師如来を本地とする牛頭天王を祀り御霊会を執り行った。この869年の御霊会が祇園祭の起源とされているそうです。(Wikipediaより引用)

時代が進む中で、朝廷の祭りから民衆が参加する祭りへと変化し、応仁の乱や戦争による中断、大火によって山鉾を焼失することもありながらも、幾度も復興させ、1000年以上の時を経て今なお続いているということです。

大丸京都店のショーウィンドウに、狩野永徳筆 国宝「上杉本 洛中洛外図屏風」複製品を展示していました。この絵の中に山鉾巡行の様子が描かれています。京都の町並みも生活様式も様変わりしている中で、山鉾は絵の中にも現代にも同じ様な形で存在しています。永徳が活躍したのは1500年代の戦国～安土桃山時代。歴史の重みと、京都の奥深さを感じずにはられません。

災害や疫病を怨霊の祟りとは考えなくなった現代でも、こんなに異常気象がつづく、神頼みをするしかないように思っています。

局地的な豪雨が各地で起きていますが、大阪は空梅雨です。全国に満遍なく、やさしくほどほどに降ってくれることを祈るばかりです。

天気予報では、今年は記録的猛暑だと言っていますが、どうなることでしょうか。皆さま、どうぞ体調には充分気を付けて、楽しい夏をお過ごしくださいませ。



長刀鉾の実物とミニチュア

普段はバスが走る四条通もこの日は歩行者天国に。



レトロななつき氷屋さんで、涼をとりました。